

地域密着型サービス事業者 自己評価表

（ 認知症対応型共同生活介護事業所 ， 小規模多機能型居宅介護事業所 ）

| | | | |
|-----------|------------------------------------|---------|-------------|
| 事業者名 | グループホームなの花すながわ(2号館) | 評価実施年月日 | 平成20年12月16日 |
| 評価実施構成員氏名 | 大友 拓 鈴木 真由美 中嶋 康隆 内山 好江 押野 悠莉 成澤 梢 | | |
| 記録者氏名 | 大友 拓 | 記録年月日 | 平成21年1月2日 |

北 海 道

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|--|--|--------------------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | |
| 1. 理念と共有 | | | |
| 1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。 | 今までの理念を見直しをし、地域密着型サービスにふさわしい理念の設定をした | ○ | より理念に密着したサービスが提供できるよう、理念に沿って取り組んでいく |
| 2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。 | 職員全体に理念を浸透させる為、申し送り時に復唱し、理念の理解と実践に向けて取り組んでいる | ○ | 申し送り時に理念を復唱している、今後も理念に沿ったケアを実践して行きたい |
| 3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。 | 玄関に理念を掲示しているが、家族や地域にはどの程度浸透しているのかは不明な為、今後はより努力していきたい | ○ | 事業所の新聞に掲載し、ご家族・地域の人々に理念を伝えていく |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。 | 近所の方が、花壇の手入れや、野菜、花の差し入れをして下さっている。イベント時には地域の方を招待している | ○ | まだ、一部の方との交流しか無い為、交流が増えるよう施設の新聞等を通じて働きかけて行きたい |
| 5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。 | 町内会に入り、町内のゴミ拾い等に参加している | ○ | もっと多くの行事に参加できるように努める今後は積極的に関わって行きたい |
| 6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。 | スタッフなどで話し合ったことはないが、砂川市立病院附属の看護学校からの実習生を行っている | ○ | 今後、地域への貢献として何が出来るのか職員間で話し合い、取り組んで行きたいと思う |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んでい きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|--|---|------------------------|--|
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | |
| <p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> | <p>カンファレンス時、自己評価会議の際に意義の説明がされた。前回の外部評価の結果をもとに、改善に取り組んだ</p> | | |
| <p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。</p> | <p>町内会長及び、家族の方々との意見を聞き、日々のサービス向上に活かしている</p> | ○ | <p>今後、地域包括支援センターの協力を得て、より良いサービスを実施していきたい(先方との情報交換はできている)</p> |
| <p>○市町村との連携</p> <p>9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> | <p>市役所の介護福祉課との連絡等を取り、情報交換を行い、利用者・家族との意見を取り入れている</p> | ○ | <p>今後も従来通りの意見交換を密に取っていきたい</p> |
| <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>10 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> | <p>外部での学習や研修などで学ぶ機会はあるが、活用するまでには至っていない</p> | ○ | <p>事業所内で学ぶ機会を持ち、理解を深めていきたい</p> |
| <p>○虐待の防止の徹底</p> <p>11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> | <p>学習会や研修などで学ぶ機会もあり、現在の取り組みとしては虐待防止マニュアルの作成に取り組んでいる所である</p> | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| <p>○契約に関する説明と納得</p> <p>12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> | <p>契約の前に事業所の重要事項の説明と見学をしていただき、本人・家族から不安・疑問点を尋ね、理解が得られるよう努めている</p> | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んで きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|---|---|-----------------------|-------------------------------------|
| <p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p> | <p>時間を設けて、そのような場を開いてはいないが、日常的に意見・苦情が出た場合は申し送りにて話し合われる</p> | ○ | <p>自らが伝えることのできない方の不満を探っていく必要がある</p> |
| <p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p> | <p>事業所の新聞にてご家族に報告している。また、来訪時や必要時には電話にて連絡・報告を行っている</p> | ○ | <p>今後も連絡を密にし、情報を共有していく</p> |
| <p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p> | <p>苦情等がいつでも訴えられるよう、苦情用紙の作成や、苦情相談担当者を選定し掲示している。また、道や市の機関へも相談出来るよう、各機関の情報も掲示している。苦情に対しては事実関係を確認し職員の指導や運営に活かしている</p> | | |
| <p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p> | <p>職員の意見や提案を聞く機会は設けられているが、反映されているかは不明な点もある</p> | ○ | <p>個人面談やカンファレンスを通して反映させられるよう努める</p> |
| <p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p> | <p>入居者の状況の変化に応じて話し合いを持つ事もあり、休憩時間や残業などの調節をしている</p> | | |
| <p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p> | <p>以前より離職する人数は減少している。職員の異動の場合は、入居者の状態に応じて伝え、ダメージを防ぐ配慮をしている</p> | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んで きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|---|---|-----------------------|-------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | スタッフ研修会や講習会への参加を通じて学ぶ機会が確保されている、また、カンファレンスや外部講師を招いての勉強会など施設内での勉強会も行っている | | |
| 20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | 他施設の行事等に参加したり、他施設の方を招いての勉強会を開いたりとサービスの向上と交流に努めている | | |
| 21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。 | 親睦会の開催、有給の消化、職員が悩みを言える窓口を設けている | | |
| 22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。 | 職員の資格取得に向けて、研修に参加しやすい状況作りをしている | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。 | 家族・他の事業所より相談を受けた時には、一度本人に見学に来て頂き、本人の希望や利用に関してどう思っているかを聴き、受け止めている。利用に対し不安がある場合、時間をかけて何度か面談をし、安心して利用できるよう支援している | | |
| 24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。 | 他の事業所より相談を受けた場合にも家族に事業所の方に見学に来ていただき、その時困っていることや求めている事を聴き、受け止めている。利用までの間にもこまめに連絡を取り情報交換等をしている | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|---------------------------|--|---|--------------------|------------------------------------|
| 25 | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 家族からの相談を聞き、場合によっては市役所への問い合わせを勧めたり、他施設の紹介などを行っているが、他サービスへの具体的な支援は行っていない | ○ | 他事業所との連携を図り、継続的にサービスが利用できるよう支援していく |
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。 | 事前に見学に来ていただき、利用する意思があるかを聞いている。また、事前に本人の生活歴・性格等アセスメントし、その人にあった関わりが持てるよう努め、馴染みの関係が築けるよう努力している | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。 | 家庭的な生活の場として、一緒に調理や買い物に出掛けたりしている。また、日々のコミュニケーションの中で不安や悩みを聞き共感、共有出来る関係の構築に努めている | | |
| 28 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。 | 利用者と職員の関係性に比べ、一部の家族以外は職員との関係は希薄である来所時に気軽に話が出来るような雰囲気作りをしており、家族からの要望を取り入れるよう行っている | | |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。 | 家族との外出・外泊・宿泊など自由に行える環境作り。また、面会時にはゆっくりと居室にて過ごせるよう、これまでの関係を理解し、よりよい関係が築けるよう支援している | | |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | 家族との電話や外出・外泊・宿泊は自由に行っている。近くの友人の来訪もある。今までの生活習慣から、決まった日に外出される方もいる | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んで きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|--|---|-----------------------|--|
| 31 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。 | 利用者同士の対人関係を考慮し、孤立せず支え合えるような関係が築けるよう支援している | ○ | 利用者同士の関係性に配慮した食席、新しい入居者が他の入居者と関係が築けるような配慮と支援 |
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。 | 退居した方や、家族とは関係が絶たれているのが現状 | ○ | 本人・家族が安心できるような関係性を継続していきたい |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 本人の希望の把握に努め、場合によっては聞き取りを行うなどしている、本人にとっては何が一番良いのか考えたケアに取り組んでいる | | |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | 本人・家族などにこれまでの生活歴などを聞きケアに活かしている、また、日常のコミュニケーションなどで把握できた事なども職員間で共有し、ケアに活かしている | | |
| 35 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。 | 日常の観察やコミュニケーションを通じて、現状、変化等の把握に努めている。また、把握できた情報を申し送りやカンファレンス等で職員間で共有し、日々のケアに活かしている | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。 | 本人の意向を聞き、考慮のうえ、職員での話し合いのもとケアプランの作成を行っている | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んで きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|-----------------------------|--|---|-----------------------|---|
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 | 利用者の身体的、精神的変化でケアの見直しが必要となった場合、臨時にケアカンファレンスで話し合い、変化に対応出来るよう現状に沿ったケアプラン作成を行っている | | |
| 38 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 日々の様子は、センター方式を活用し、申し送りやカンファレンスにて情報の共有をしている | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。 | 医師の定期的往診、または、歯科医師の往診で外来受診の負担が軽減されたり、入院・早期退院の支援を行っている。外出や買い物の同行など、柔軟な支援を行っている | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。 | SOSネットワークを作り場合によっては活用し支援出来るようにしている、また、ボランティアの方が慰問に訪れ、楽器の演奏や日舞等を行ってもらっている | | |
| 41 | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。 | 他市の訪問美容サービスの利用を行っているが他の事業者との話し合いにより、他のサービスの利用は行っていない | ○ | 今後は、地域でその人を支える事に重点を置き、他の事業者と協働し、様々なサービスの利用を検討していく |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。 | 現在は必要な場面がなく、協働できていない | ○ | 必要となった場合は、地域包括支援センターと協働していけるよう連携を図っていく |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んで きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む) |
|----|--|---|-----------------------|--|
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | 連携医療機関の医師が定期的に往診に来ている。また、以前からのかかりつけ医に継続して受診できるよう家族の協力も得ながら支援している | | |
| 44 | ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。 | 連携医療機関の医師は認知症相談医であり、看護師を通して入居者の相談などしている | | |
| 45 | ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。 | 看護職員常勤のもと健康管理や相談が行えるよう支援している、また、医療面でのアドバイス等ケアに活かしている | | |
| 46 | ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。 | 入院した場合には、入院先の病院と連絡を取り情報交換や、早期退院に向けての意向を話し合っている | | |
| 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。 | 現在は、今の状況を家族へ説明し、希望を聞き話し合いの途中であり、今後の方針は決まっていない | ○ | 話し合いを重ね、決まり次第全員で方針を共有する |
| 48 | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。 | 重度化、終末期へ向けた話し合いがあっても出来ること、出来ないことの見極めが無く、チームとしての支援が不足している為、今後も取り組みが必要に思われる | ○ | 関係者を交えたカンファレンスの実施、方針を共有できる書類の作成、マニュアルの作成 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んでい きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|---|---|------------------------|---|
| <p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p> | <p>別の居宅・病院等へ移り住んだ場合、移住先の関係者と連携を取り、添書や申し送りにて情報提供し、ダメージを防ぐよう努めている</p> | | |
| <p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> | | | |
| <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> | | | |
| <p>(1)一人ひとりの尊重</p> | | | |
| <p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p> | <p>プライバシーに配慮した関わりをしているが、言葉かけや対応に不十分な面もある。</p> | ○ | <p>尿取りパットやDパンツの保管の取り扱いを検討する。尊厳を保てるような言葉かけを行えるよう意識付けを行っていく</p> |
| <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> | <p>日常生活の中で、悩みや不安を聞き出すよう、スタッフの方からアプローチしている。</p> | | |
| <p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> | <p>本人のペースを尊重し、自己決定できるよう支援しているが、入浴の時間など、勤務体制の都合で希望に添えない時もある</p> | ○ | <p>できる限り勤務体制の見直しなどで希望に添えるように努めていく</p> |
| <p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p> | | | |
| <p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p> | <p>本人の望む店には行けるよう支援している。家族の対応などで今までの馴染みの店などにも行っている</p> | | |
| <p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p> | <p>できる事、できない事を見極め、入居者と共に食事準備や片付けを行って頂いている。また、それぞれの好きな物・嫌いな物を把握し好みに合わせた食事の提供している</p> | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んで きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|--|--|-----------------------|---|
| 55 | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。 | おやつは希望に沿った物を出せていない。好みは聞いているが、すべてにおいて反映はできていない。お酒は希望があれば看護師等とも相談した上で提供できる | ○ | それぞれの好みに合わせた物を提供できるよう努めていく |
| 56 | ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。 | 記録にて排泄のチェックをしているが、全員の排泄パターンの把握はできていない。失敗やおむつの使用を減らせてはいない | ○ | 排泄パターンを把握し、声掛けをしてトイレを促すなどで、失敗、オムツの使用を減らせるよう努力する |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。 | 本人の承諾を得て入浴していただいている為、本人の希望に合わせているが、時間帯は職員の都合で決めていることもある | ○ | 本人の希望に合わせて支援できるよう努めていく |
| 58 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。 | 一人ひとりの習慣や体調に合わせ、本人が休息したい時には好きな時にできている | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。 | 掃除・調理等1人1人の力を活かした役割への参加、編み物、畑仕事等その人の生活歴に合わせた得意な事への参加支援を行っている。 カラオケや散歩、イベントやレクリエーションを行い気晴らしの支援を行っている | | |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | 本人で管理出来る人、または、出来ない人へも手助けのもとお金を所持もらい、本人の希望によっては買い物などへ行き使っている | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んでい きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|--|------------------------|--------------------------------|
| 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。 | 好きな時に散歩に出られるよう支援している。または、家族の協力を出掛ける事もできている | | |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。 | 事業所のイベントにて、りんご狩り・温泉などに行っている。また、家族の支援によって外出している | | |
| 63 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 本人の希望により電話を掛けたり、または、掛かってきた電話を取り継ぐなど支援している | | |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | 家族や知人等が気軽に訪問出来るような環境整備や明るい雰囲気作り(掲示物、花壇、職員の挨拶等)に努めている。また、家族と利用者だけになれるような配慮にも努めている | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束のないケアに取り組んでいるが「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」についてはよく理解できていない為、今後理解を深める必要がある | ○ | 勉強会の開催や外部の研修会へ参加し理解を深める |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | 居室や玄関は開放している。夜間帯は防犯等の為施錠している | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んで きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|--|--|-----------------------|--|
| 67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。 | 利用者のプライバシーや安全に配慮し近くで見守り、所在の把握に努めている | | |
| 68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。 | 1人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている(異食の可能性のある物の撤去や管理)。包丁や洗剤は、施錠できる場所にて保管している | | |
| 69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | マニュアル作成や研修などの参加を通じて事故防止に取り組んでいる | | |
| 70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。 | 救命講習や全体のカンファレンス等を通じて対応を学んでいる | ○ | 今後も定期的に学べる機会を設ける |
| 71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 | 避難訓練などを行い方法を身につけているが、地域の人々の協力が何処まで得られるかは不明 | ○ | 地域との交流を深め、災害時に協力が得られるよう、施設の新聞等で呼びかけていく |
| 72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。 | 必要時には、施設長・管理者・看護師が家族に対して説明を行っている | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んで きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|---|---|-----------------------|-------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | |
| 73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。 | 日々のケアを通じて、体調変化や異変の早期発見に努めている、また、発見時の速やかな報告や申し送り等で情報の共有を行い統一したケア、対応に活かしている | | |
| 74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 服薬支援などは行っているが、薬の副作用や目的は説明不足もあり全員理解してはいない | ○ | 薬変更時の徹底した連絡、副作用の説明 |
| 75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。 | 便秘が及ぼす影響や原因を理解し食物繊維や乳製品の利用など工夫をしている | ○ | 今後は、予防体操や身体を動かすなどより一層の予防に努めたい |
| 76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。 | 口腔ケアの重要性を理解し、一人ひとりに合わせた促しや見守り等その人にあつた対応を行っている、また、週一回義歯洗浄剤を利用し汚れの防止等も行っている | | |
| 77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 食べる量は、その方の食べられる量に合わせて提供している。水分量は必要な量を飲んでいただけるよう支援している | | |
| 78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等) | 感染症予防マニュアルや研修を通じて学んだ事を活用し対応している。また、インフルエンザ予防接種の実施。手洗い、消毒、換気、湿度・温度の確認を励行している | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んで きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|---|--|--|-----------------------|-------------------------------|
| 79 | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。 | 夏は生ものを控えている。台所・調理器具は1日最低一度は消毒している。食材は賞味期限に注意して使用している | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。 | 気軽に出入りできるよう玄関前に花を飾ったり、ホーム周辺に花壇を作るなど美化に努めている。冬の時期にも雪のオブジェを作り親しみやすい雰囲気作りに努めている | | |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 自然光が入るよう大きな窓があり、廊下や食堂には日常の写真や創作作品などが飾ってある。不快な音や光がないよう配慮している | | |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | フロアには一人がけの椅子を配置し、一人になれる空間もある。利用者は思い思いに過ごせている | | |
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 入居時には衣服や家具等、染みの物を持って来たりとその人の生活歴に配慮した空間になっている | | |
| 84 | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。 | 一人一人に合った居室の温度調整、天候に応じた換気、温度・湿度の調整を行っている。また、利用者の要望に応じて温度調整も行っている | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んで きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|---|--|--|
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | |
| 85 | <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p> | <p>手摺りの設置や杖の利用等一人ひとりに合った対応で自立した生活が送れるようになっている、また、スロープや段差が少ないなどバリアフリーになっており、安全面にも配慮した造りになっている</p> | |
| 86 | <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p> | <p>居室に一人ひとりの表札をつけたり、風呂場への《ゆ》の暖簾を掛けたりと配慮している</p> | <p>○ トイレなど表札等を設置していない場所もまだある為、今後設置していきたい</p> |
| 87 | <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p> | <p>裏庭の畑や花壇、個人が鉢で花を育てたりと外での活動ができるように支援している。また、夏場はテントを張り、お茶を飲んだり、涼んだりと休息出来るようになっている</p> | |

| V. サービスの成果に関する項目 | | | |
|------------------|--|--|---|
| 項目 | 取り組みの成果 | | |
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない | ○ |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない | ○ |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない | ○ |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている | ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない | ○ |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない | ○ |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない | ○ |
| 94 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない | ○ |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない | ○ |

| V. サービスの成果に関する項目 | | |
|------------------|--|---|
| 項目 | 取り組みの成果 | |
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない <p style="text-align: center;">○</p> |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 | ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない <p style="text-align: center;">○</p> |
| 98 | 職員は、生き生きと働いている | ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない <p style="text-align: center;">○</p> |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない <p style="text-align: center;">○</p> |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない <p style="text-align: center;">○</p> |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)